

旅スル絵画

― 住友コレクションの文人画

2022年3月26日（土）－ 5月15日（日）



中林竹洞《前赤壁図》江戸・天保10年（1839）

【開催趣旨】

「万巻の書を読み、万里の道を行く」一旅は、いにしえより中国文人が読書とともに最も大切にしていた営みでした。未知の空間に踏み入り見聞を深め、山河の気に触れることを重視していたのです。

江戸時代の文人画家たちも多く旅に出ました。旅先では、美しい風景や優れた師、心通じる友との出会い、そして先人の貴重な絵画や書などに接する機会でもありました。逆に大切な絵を携えて旅先で共に鑑賞することもしばしばでした。自らの内面を心の赴くまま自由に筆墨に託す文人画家にとって、そういった体験が制作の滋養となったことはいまでもありません。

旅の楽しみはそれだけではありません。文人にとって絵の中を旅すること―描かれた理想の天地に身をおくことこそ最大の醍醐味でもありました。

本展では、住友コレクションより「旅」をキーワードに江戸時代の文人画を展観します。長崎に来舶して日本に多大な影響を与えた沈南蘋ら中国の画家の作品もあわせてご紹介します。

旅スル絵画 … 画家が旅する 絵が旅する 絵の中を旅する

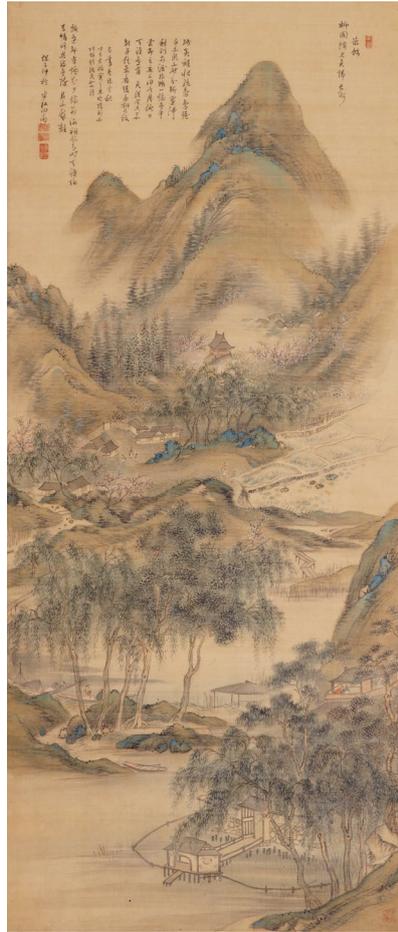
【おもな展示品（予定）】すべて泉屋博古館蔵

岡田半江 <small>けいそんしゅんかんず</small> 《溪邨春酣図》	江戸・天保 11 年（1840）	
与謝蕪村 《風雨樹下牧馬図》	江戸時代 18 世紀	
十時梅屋 《十便十宜帖》	江戸・寛政 13 年（1801）	【頁替えあり】
浦上春琴 《蔬果蟲魚帖》	天保 3 年（1832）	【頁替えあり】
中林竹洞 《前赤壁図》	江戸・天保 10 年（1839）	
日根対山 《四季山水図巻》	江戸・安政 6 年（1859）	
田能村竹田 《梅溪閑居図》	江戸・文政 10 年（1827）	
彭城百川 《墨梅図屏風》	江戸・寛延 2 年（1749）	
周之夔 <small>しゅうしき</small> 《溪澗松濤図》	清・順治 3 年（1646）	
沈銓（沈南蘋） 《雪中遊兔図》	清・乾隆 2 年（1737）	【展示期間：4/5～5/15】

【開催概要】

名 称	旅スル絵画 — 住友コレクションの文人画 同時開催：青銅器館「中国青銅器の時代」 コーナー展示「住友財団助成修復完了記念 モンゴル匈奴墓出土漢代紀年漆器」
会 期	2022 年 3 月 26 日（土）－ 5 月 15 日（日）
休館日	月曜日
会 場	泉屋博古館（京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町 24） 〔開館時間〕 10 時 ～ 17 時（入館は 16 時 30 分まで）
入館料	一般 800 円／高大生 600 円／中学生以下無料 ※20 名以上は団体割引 20%、障がい者手帳ご呈示の方は無料
主 催	公益財団法人泉屋博古館、京都新聞
後 援	京都市／京都市教育委員会／京都市内博物館施設連絡協議会／ 公益社団法人京都市観光協会

画家が旅スル



岡田半江《溪邨春酣図》江戸・天保11年（1840）



田能村竹田《梅溪閑居図》
江戸・文政10年（1827）



江戸後期の文人画家を代表する田能村竹田（たのむらちくでん 1777-1835）は、大分竹田を拠点に九州や京坂を行き来して、文人同士の交流を深めました。これは薩摩の旅で出会い心通わせた友のため、思い出を胸に描き贈ったもの。

絵が旅スル



浦上春琴《蔬果蟲魚帖》 江戸・天保5年（1834）

【頁替えあり】



十時梅厓《十便十宜帖》 江戸・寛政13年（1801）

【頁替えあり】

京を拠点にした浦上春琴（うらかみしゅんきん 1779-1846）は、尾道に長期滞在したお礼として、瀬戸内の海の幸を生き生きと描きました。

絵の中を旅スル

中国宋代の詩人 蘇東坡（蘇軾）が景勝地・赤壁におもむき、月夜に船遊びした際の詩をもとにした作品です。中林竹洞（なかばやしちくとう 1776-1853）は、京にいながらにして、異国の旅を憧れの詩人とともに楽しんだのです。

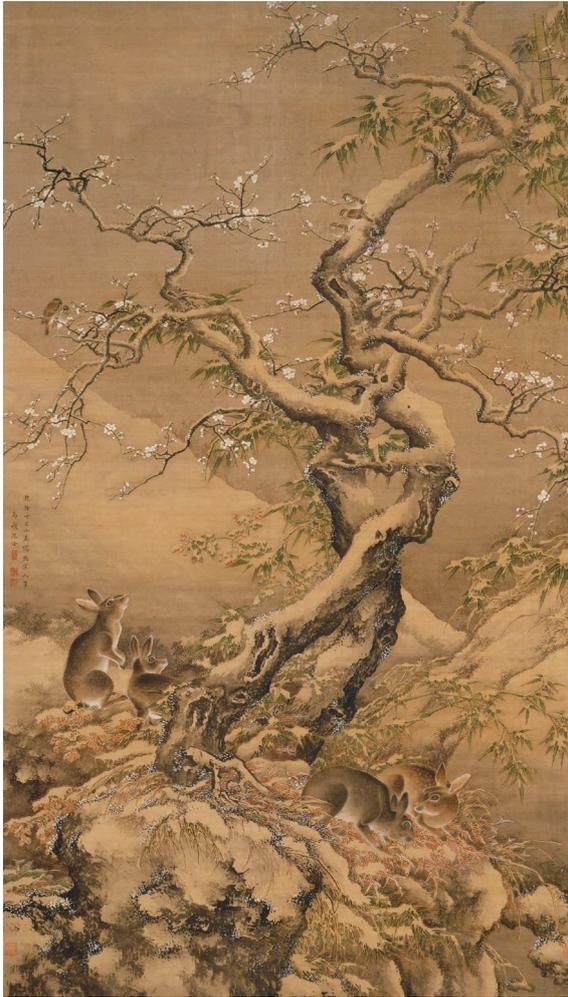


中林竹洞《前赤壁図》 江戸・天保10年（1839）



日根対山《四季山水図巻》 江戸・安政6年（1859）（部分）

名画・先人に出会う旅



沈南蘋《雪中遊兔図》 清・乾隆2年（1737）

【展示期間 4/5～5/15】

江戸時代中期、長崎にやってきた中国の画家 沈南蘋（しんなんびん）は、その緻密な写実表現、迫力ある構成で日本に衝撃を与えました。蕪村、若冲、応挙はじめ、日本の画家はみな影響を受けたと言います。直接教えを請いに長崎に旅した画家も少なくなかったと言います。

かつて泉州の豪商 里井浮丘が所蔵していた中国の名画。一目見ようと遠方からの来訪者が後を絶たず、また浮丘自身も自慢の名画を携えて京の友人を訪ねています。竹洞、春琴、半江…幕末の名だたる文人の熱狂ぶりをしのぶ当時の資料が、泉佐野に遺されていました。あわせて特別展示します。



周之夔《溪澗松澗図》 清・順治3年（1646）

【会期中のイベント】

スペシャル・トーク

① 4月17日（日）13時30分～15時

「『サロン！展』からみた住友コレクションの文人画」

平井啓修氏（京都国立近代美術館主任研究員）

② 4月30日（土）13時30分～15時

「文人と泉南—京・大坂との往来」

富田博之氏（南泉州史遊会 泉佐野市立歴史館いずみさの元学芸員）

スライド解説

4月6日（水）、5月7日（土） 14時～15時 実方葉子（泉屋博古館学芸部長）

併催：コーナー展示

「住友財団助成修復完了記念 モンゴル匈奴墓出土漢代紀年漆器」関連催事

特別講座「蘇る漆器—モンゴル出土 漢代漆器の保存修理」

4月9日（土）13時30分～16時

「モンゴル国の匈奴の遺跡」

大谷育恵氏（京都大学白眉センター特定助教）

「漢代の漆器を保存修復する」

岡田文男氏（京都芸術大学客員教授）

連絡先

泉屋博古館（京都）広報担当 pr-kyoto@sen-oku.or.jp

606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24 泉屋博古館

TEL 075-771-6411 FAX 075-771-6099 HP <https://www.sen-oku.or.jp/kyoto/>

以上

企画展「旅スル絵画 ー住友コレクションの文人画」

会場：泉屋博古館 広報画像貸出申込書

本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、以下の作品画像をデータでお貸出しいたします。申込書のご希望の図版にを記し、用紙をFAXまたはメールにて返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

※ 所蔵はすべて「泉屋博古館」

 <p><input type="checkbox"/> 十時梅屋《十便十宜帖》 江戸・寛政13年(1801)</p>	<p>※画帖作品のため頁替えあり</p>  <p><input type="checkbox"/> 沈南蘋《雪中遊兔図》 清・乾隆2年(1737) 展示期間【4/5～5/15】</p>	 <p><input type="checkbox"/> 周之夔《溪澗松濤図》 清・順治3年(1646)</p>	 <p><input type="checkbox"/> 田能村竹田《梅溪閑居図》 江戸・文政10年(1827)</p>
<p>※画帖作品のため頁替えあり</p>  <p><input type="checkbox"/> 浦上春琴《蔬果蟲魚帖》 天保3年(1832)</p>	 <p><input type="checkbox"/> 中林竹洞《前赤壁図》江戸・天保10年(1839)</p>	 <p><input type="checkbox"/> 彭城百川《墨梅図屏風》江戸・寛延2年(1749) (左隻) *右隻・左隻あります</p>	
 <p><input type="checkbox"/> 日根対山《四季山水図巻》江戸・安政6年(1859) (部分)</p>			

*部分図のご希望にも対応可能です。

● 貴社基本情報

貴社名：

媒体名：

ご担当者名：

発行日/放送日：

URL：

ご連絡先

住所：

電話・FAX：

E-MAIL：

● 読者プレゼント用チケット希望：

5組10名様

10組20名様

掲載に関するお問い合わせ先 泉屋博古館 (担当：坂井)
606-8431 京都市左京区鹿ヶ谷下宮ノ前町24 TEL:075-771-6411 FAX:075-771-6099 E-mail: pr-kyoto@sen-oku.or.jp